会長就任にあたって

王寺　睦滿　新日本製鐵(株)代表取締役副社長

この度第85回通常総会において本会の会長に選任頂きました。この激動の時期に当たって重大な責任を負うことに、身の引き締まる思いです。ご期待に添えるかどうか、心もとない限りですが、会員の皆様のご協力のもとに、業界と学界の力を結集し、鉄鋼協会をますます発展させるよう努力していく所存です。

さて、現下の鉄鋼業のおかれた状況をみると、日本経済全体の沈滞の影響をもろに受ける形で、鉄鋼業全体としても、艱難(かんなん)の只中にあるといえましょう。経済全体としてはやっと底を脱して、ほのかに明かりが見えてきたかという状況です。

同様に厳しい状況に置かれた需要業界のやむにやまれぬ動きから端を発して、市場における競合状態が、これまでにも増して激化するという予感があります。

また、大きくは地球環境問題から始まって、環境問題が再びクローズアップされてきております。環境負荷が比較的大きい鉄鋼業としては看過できないことであると同時に、リサイクル性については非の打ち所のない材料である鋼材にとって、大きなチャンスと受け取るべきでありましょう。

このように、複雑で、困難な状況を前にして、不安感、逼塞感を打破し、新しい波に乗りおおせるためには、やはり我々は新しい技術の開発という原点に戻るしかないと思います。鉄鋼協会の伝統に従って、競い合い、協調し合って、山積する課題に技術的な挑戦をする、それを通じて、全体としての日本鉄鋼業のこれまでの世界における地歩をいっそう揺るぎ無いものにしてゆきたいと願っています。

また、近年、産業競争力の強化が叫ばれ、産学の共同が強く望まれていますが、この鉄鋼協会は、従来から産学協同の理想的な場を築いてきました。この数年を振り返っても、リストラ80による学術部門の強化に引き続いて、前任の岸会長のもとで、特別にタスクフォースが設定され、手続きの煩雑さを出来るだけ避けて、産業部門と学術部門のより直接的で、活発な意思疎通を可能とするための改革が行われました。理事を中心とする各部会、委員会の自律的な運営を基本とし、学術、産業両部門のあいだの直接的な課題の授受、研究開発の方向性についての活発な議論が盛んに行われ、それを通じて、活発な学界活動が盛り上がる事が期待されています。この新しい体制を根付かせ、実効を挙げる事が出来るよう、全力を挙げたいと思います。

学界としても、国立研究所の独立法人化が実行に移され、大学における同様の変革の検討など、将来に向けて、様々な変化が予想されます。当面の、取り組みとしてはJABEEにおける技術者教育認定への動きに、関連する材料系学協会と共に積極的に協力していく必要があります。また、大学の材料系の学科における鉄鋼離れの進展にも注意を払って、適切な対処をする必要があると強く認識している所です。

本会会員の皆様のご協力とご支援をいただき、本会の益々の発展の為に、微力ながら全力を尽くしたいと思います。どうかよろしくお願い申し上げます。